

苗木生産現場における直挿しコンテナ苗育成技術の導入

- スギ少花粉品種4系統の発根状況 -

1 はじめに

当センターでは、スギ挿し木コンテナ苗の効率的な育成に向け、穂木をコンテナに直接挿しつける「直挿し」試験に取り組み、これまで少花粉品種4系統で十分な発根が得られ、直挿しによる育苗は可能であると示唆した¹⁾。本技術は、育苗労務の省力化が期待されることから、苗木生産現場において技術導入が望まれている。

そこで、今回、当センターの技術指導のもと、試行的に直挿しに取り組んだ苗木生産現場において、発根状況を調査したので報告する。

2 方法

直挿しの取組および調査は、住田町の吉田樹苗で行った。供試系統、穂木の調整方法は既報¹⁾に準じた。2020年5月20日、300ccコンテナ(JFA300)に、ココピートオールド、鹿沼土、ANS培地(㈱関東農産)を体積比5:3:2で混合したものを充填し、調整した穂木を直接挿し付けた。挿し付け本数は、岩手県11号204本、北秋田1号、水沢6号、雄勝13号は各々100本の合計504本とし、21枚のコンテナに対して系統を混植した。挿し付け後の管理方法は表1のとおりである。

2020年10月21日、発根状況を調査した。コンテナ底面から根が確認された苗木を発根とし、コンテナ1枚のなかで発根した苗木の本数を全苗木本数(24本)で除した値を、コンテナあたりの発根率とした。

3 結果と考察

コンテナあたりの発根率は92%~100%、平均では97%であった。コンテナ11枚では、全ての苗木で発根しており、残る10枚のコンテナでも、発根していない苗木は2本以下であった。

また、コンテナ底面からは、発生した多数の根が観察され(写真2)、発根量も十分に得られたと推察された。

【参考文献】

¹⁾ 岩手県林業技術センター研究報告第29号(2021)p1-7

4 成果と今後の進め方

今回、苗木生産現場においても直挿しによる発根状況が非常に良く、直挿しによりコンテナ苗の育成が可能であることが実証された。

今後は、少花粉品種および特定母樹を中心に、今回供試した4系統以外の発根状況も確認を進めていく予定である。

表1 挿し付け後の管理方法

区分	管理
散水	8月中旬までは、日あたり合計52-78分のミスト灌水 それ以降は半分程度に減水、降雨等により適宜調整
日覆	遮光率50%の寒冷紗を設置



写真1 挿し付け後のコンテナ据置状況

注1) 高さ9.5cmのトレイを地面に置き、その上にコンテナを設置
注2) 今回の報告では写真1の左側に設置されているコンテナが対象



写真2 発根状況(2020年10月21日)

(担当者 研究部 主査専門研究員 丹羽花恵)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス : <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410